

青山教会会報

「キリストを着る」

創世記三章六く七節、二一節

ガラテヤの信徒への手紙

三章二六く二九節

牧師 増田将平

「洗礼を受けるとなりが変わるので
か」と聞かれることがあります。聖書の
答えはこうです。「洗礼を受けると、神様
は私たちに『新しい服』を着せてくださ
います」。その服はアダムとエバが身に付
けたいちじくの葉のように腐ることはな
く、皮の衣のように古くなることもあり
ません。人は目に見える変化を求めます。
目に見えて自分の手で確かめられると安
心しますが、そうでないと不安になりま
す。この「新しい服」は目には見えませ
ん。一体どんな服なのでしょう。二七
節に「洗礼を受けてキリストに結ばれた」

とありますが、「キリストに合う洗礼を受
けた」とも訳せます。そのようにして洗
礼を受けた人は「キリストを着る」よう
になるのです。「キリストを着る」とい
うのは風変わりな表現です。「祖父の形見の
ジャケットを着る」「母の形見の着物を着
る」ということはあります。だからとい
って、自分が祖父や母になるわけではあ
りません。この節は「キリストの中に入
られる洗礼」とも訳せます。キリスト
というお方の中に洗礼を受ける人が入っ
ていくようなイメージです。服を着ると、
体と服は一つになります。例えば学校に
入学すると制服を着るようになります。
制服を着ている生徒はその学校と一つに
なります。洗礼を受けた人は誰でもキリ
ストを着せていただけるのです。目には
見えませんが、キリストを着ています。
キリストに覆われています。そうしてキ
リストが私たちと一体となってください
ます。その人がキリストになるわけでは
ありませんが、キリストに似た人となり
ます。キリストは神の子です。神の子で
あるお方を着ているので、私たちは神の
子になります。

この衣には脱ぐということはありません。
起きている時も寝ている時も身に付
けています。とはいえこの衣は目に見え
ないので「私は本当にキリストを着てい
るのだろうか」と疑うことがあるでしょ
う。しかし礼拝に来て洗礼盤を見ると自
分が洗礼を受けたこと、キリストを着て
いることを思い起こすことができます。
説教を聞き、讃美歌を歌い、聖餐に与か
れることによって、神の子の装いを新たに
されます。

礼拝堂にいる一人ひとりみな違う服
を着ています。しかし洗礼を受けている
人々はこの同じ服、キリストを着てい
ます。だから神の子は一人ぼっちではあ
りません。神の家族がいます。当時の教
会には「ユダヤ人、ギリシア人、奴隸、
自由な身分、男も、女も」いました。し
かし神の前では社会的な身分、性別、年
齢、人種、性別の区別は全く問題にはな
りません。洗礼を受けて、キリストを着
た神の子たちは神の前では一つの家族で
す。

アダムとエバは善悪の知識の木の実を
食べて自らを隠すようになりました。罪
を恥じて神の前に出ることができなくな
りました。しかし私どもはキリストを着
せていただいているのですから、安心し
て神の前に立つことができます。神がこ

の衣をご覧になるのです。神の目に見える私どもの姿は、罪を犯したアダムとエバのような醜い裸ではありません。イエス・キリストだけが私たちの着ている衣となります。

ある牧師は言います。「私たちは自分をキリスト者と呼んでいます。自分がキリストに不釣り合いな人間だということをよく知っています。私たちはキリストに似合わない人間なのです。そのような私たちがキリストに包まれているのです。まことに不釣り合いですが、キリストが私たちが着物のように包んでいてくださるのです。これが神の前に立つキリスト者なのです。その着物を誰が見るのですか。神ご自身がご覧になるのです」

「私たちの罪のために、十字架に死に、墓に葬られ、三日目によみがえりたもうたキリストが、私たちの罪深い姿を神のみ前で覆い隠しておられるのです。このようにキリストを身にまとった私たちが神が見ていてくださって、あえて私たちの醜い罪深い裸をご覧になろうとはなさらない、それが神の愛であり、罪の赦しであるのです」

『ナルニア国物語』の著者であるルイスはこのように言いました。

「キリストを着るということは、キリストになつたふりをするということです。あなたは自分が神の子などではないと自覚するでしょう。私たちは神の子キリストとは似ても似つかぬ存在です。自己中心的な不安、希望、欲望、嫉妬、うぬぼれのかたまりです。ですからキリストのように装おうとは、ある意味では、途方もなく厚かましいことです」

私どもはキリストに似てきたから洗礼を受けるではありません。またクリスチャンらしい人間だから洗礼を受けるのでもありません。むしろ、その逆なのです。自分はキリストと似ても似つかぬ存在だからこそ、洗礼を受けることが必要なのです。さらにルイスは言います。「神は私たちにそのようなふりをせよ、と命じておられます。ふりをするのは悪いことでもあります。よい種類の真似もありません。ふりをしていただけなのが、次第に本物に近くなるのです。キリストを着た者として生き始めるとき、神はあなたの見せかけを現実のものに変えてくださるのです」

子供の頃テレビのヒーローやヒロインの真似をしたことがあるでしょうか。私は仮面ライダーやウルトラマンなどの格

好の真似だけでなく、彼らの素振りの真似をしたものです。そのように、私たちもキリストの真似をするのです。どのよう真似るのでしょうか。神の子であるキリストは神を「父よ」と呼ばれました。キリストは私どもに、「あなたがたも私と同じように祈ってごらん」と言われます。キリストに励まされて私どもは「主の祈り」を祈ります。「天にまします我らの父よ」と、キリストが父なる神により頼んで生きはじめます。すると、私どもに聖霊なる神が働いてくださり、私どもは次第にキリストに似ていくのです。そうして神の子らしくなっていくのです。

「神の子」ですから、神の相続人でもあります。何を神から相続するのでしょうか。やがていつかはなくなるような財産ではありません。神の子として生きる命です。生涯に渡って、神様を「天のお父さん」と呼ぶ命です。永遠の命です。洗礼を受けた人は誰でも、この命に満たされて生きることができ、死ぬことができます。それが神の約束です。